

窓口支援事例 【静岡県 知財総合支援窓口】

企業情報

浜口ウレタン株式会社

所在地	静岡県浜松市西区西山町 1961		
ホームページ URL	http://www.hamaure.co.jp		
設立年	1985 年	業種	製造業
従業員数	80 人	資本金	2300 万円

企業概要

当社は、ウレタン加工の専門メーカーとしてスタートし、高度なウレタンの成型技術で自動車・オートバイ業界、医療業界、家具、建設機器など様々な分野へ製品を供給しています。また扱えるウレタンの種類も多岐に及び、軟質・半硬質フォーム・インテグラルフォーム・硬質ウレタンフォーム・表皮一体成型といった多彩なウレタン成形品を生み出しています。また、2011 年の東日本大震災以降、今まで培ったウレタン成形ノウハウを活かして防災事業に乗り出し、救命・救助製品の設計から製造・販売を行っています。



自社の強み

当社の基本姿勢は、海外では生産できない成型技術と独自の感性を発揮し、国内での生産を貫くことです。高精度で少ロット・多品種な製品、成型が複雑で時間のかかる製品、技術的に難易度の高い特殊な製品、新しい発想から生まれた未だ市場に無い新開発製品等、国内でしか生産できない製品造りで業界のオソリーワンに挑戦しています。写真は、2016 年伊勢志摩サミットの警備用に採用された「絶対に沈まない」ウレタン注入ボートです。ウレタン注入ボートが救助、警備の常識を変えています。



一押し商品

写真は、セーフティボート 2711 で、ウレタン注入ボートと同じ「絶対沈まない」機能を持った軽量でコンパクトな製品です。集中豪雨などによる孤立した方々の避難支援や、海や川などの救命補助ボートとして人の救出や物資を載せての運搬艇として活用できます。またレジャーなどでも使用できます。(サイズ 2,700×1,100 ×チューブ径 250mm 重量 45kg)



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社とは以前からお付き合いはありましたが、今回同社を支援している経営コーディネーターから社長さんが水難救助用ボートの取引を目的に外国へ行く予定なので特許出願の支援をしてほしいとの連携要請がきっかけでした。

最初の相談概要

特許調査したところ相談者自身が似たような実用新案を出願していることがわかりましたが、権利化できそうな改良点があれば登録の可能性はあるので試作品を見せてもらい検討することとしました。その結果、製造方法に特徴があり権利化できそうな感触を得、専門家を交えて検討することとしました。

その後の相談概要

相談者、弁理士、支援窓口等が集まってどうしたら権利化できるかブレインストーミングを行いました。すなわち権利化できそうな技術に対して先願公報に記載の技術との比較検討を行い、先願公報の技術内容を踏まえて、本件水難救助用ボートが船底を含めてウレタン製であることに着目して瓦礫が浮く水面や浅瀬でも航行が可能な利点を主張すれば権利化の可能性があること、またその他においても、船体が複数の区画に分割されている点、推進装置としてジェット噴水エンジンを用いている点について権利化の可能性があることが抽出され、それらを基に特許出願していくこととしました。

窓口を活用して変わったところ

同社は特許出願の経験は何件かありますが、権利化されたものではなく防衛のための出願に留まっていました。しかし今回は外国も含めた権利を取得し、特許を活用することでワールドワイドにビジネスを進めて行こうという経営者の強い意志を感じることができ、その支援をさせていただいたことを嬉しく思っています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

開発中の製品が現在出されている特許に触れないかを調査するのは大変だと思っていたが、浜松の知財総合支援窓口に相談したところ、特許に触れるかどうかの先願調査の方法はもちろん、特許を出願する際には一緒になって考えていただきました。特許に関する件については大変有難い機関だと思います。お困りの方は是非一度窓口にご相談する事をお勧めします。



窓口担当者から一言 (近藤達憲)

同社社長は、ウレタンの活用について様々なアイデアをお持ちで、権利化できないか次々に相談をいただいている。中々難しいものもありますが、弁理士、支援窓口等が集まって、どうしたら権利化できるか皆で知恵を絞って権利化に努めています。

窓口支援事例 【静岡県 知財総合支援窓口】

企業情報

浜口ウレタン株式会社

所在地	静岡県浜松市西区西山町 1961		
ホームページ URL	http://www.hamauremarine.com		
設立年	1985年	業種	製造業
従業員数	60人	資本金	2000万円

企業概要

当社は、ウレタン加工の専門メーカーとしてスタートし、高度なウレタンの成型技術で自動車・オートバイ業界、医療業界、家具、建設機器など様々な分野へ製品を供給しています。また扱えるウレタンの種類も発泡ウレタンや低反発ウレタンなど多岐に及び、半硬質フォーム・インテグラルフォーム・硬質ウレタンフォーム・一体成型といった多彩なウレタン成形品を生み出しています。さらにバイクのカスタムシート事業の展開や環境問題への取組みから地元の放置竹林を整備し、乾留竹という新しい素材の製造販売へも挑戦しています。



自社の強み

当社の基本姿勢は、海外では生産できない成型技術と独自の感性を発揮し、国内での生産を貫くことです。高精度で少ロット・多品種な製品、成型が複雑で時間のかかる製品、技術的に難易度の高い特殊な製品、新しい発想から生まれた未だ市場に無い新開発製品等、国内でしか生産できない製品造りで業界のオンリーワンに挑戦しています。写真はウレタン製の船舶用フェンダー（接岸保護具）の例です。



一押し商品

3.11津波被災後、救助用ゴムボートはガレキの海では艇体に穴があいてしまい、危険すぎて出動できなかったと言われています。そんな厳しい環境でも出動できるボートが浜口ウレタンのウレタンボートです。

ガレキによる傷や穴空きなどでも決して沈みません。

浜口ウレタンのウレタンボートが新しい水上レスキューの常識を大きく変えました。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社とは以前からお付き合いはありましたが、今回同社を支援している経営コーディネーターから社長さんが水難救助用ボートの取引を目的に外国へ行く予定なので特許出願の支援をしてほしいとの連携要請がきっかけでした。

最初の相談概要

特許調査したところ相談者自身が似たような実用新案を出願していましたが、権利化できそうな改良点があれば登録の可能性はあるので試作品を見せてもらい検討することとしました。その結果、製造方法に特徴があり権利化できそうな感触を得、専門家を交えて検討することとしました。

その後の相談概要

相談者、弁理士、支援窓口等が集まってどうしたら権利化できるかブレインストーミングを行いました。すなわち権利化できそうな技術に対して先願公報に記載の技術との比較検討を行い、先願公報の技術内容を踏まえて、本件水難救助用ボートが船底を含めてウレタン製であることに着目して瓦礫が浮く水面や浅瀬でも航行が可能な利点を主張すれば権利化の可能性があること、またその他においても、船体が複数の区画に分割されている点、推進装置としてジェット噴水エンジンを用いている点について権利化の可能性があることが抽出され、それらを基に特許出願していくこととしました。

窓口を活用して変わったところ

同社は特許出願の経験は何件かありますが、権利化されたものではなく防衛のための出願に留まっています。しかし今回は外国も含めた権利を取得し、特許を活用することでワールドワイドにビジネスを進めて行こうという経営者の強い意志を感じることができ、その支援をさせていただいたことを嬉しく思っています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

開発中の製品が現在出されている特許に触れないかを調査するのは大変だと思っていたが、浜松の知的総合支援窓口に相談したところ、特許に触れるかどうかの調査はもちろん、特許を出願する際には一緒に考えていただきました。特許に関する件については大変有難い機関だと思います。お困りの方は是非一度窓口にご相談する事をお勧めします。



窓口担当者から一言 (近藤達憲)

同社社長は、ウレタンの活用について様々なアイデアをお持ちで、権利化できないか次々に相談をいただいています。中々難しいものもありますが、弁理士、支援窓口等が集まって、どうしたら権利化できるか皆で知恵を絞って権利化に努めています。